

(様式2) 新規評価シート

建設部 河川課

事業名	河川		路河川名等	(一)北沢川				
事業毎の通番	1	市町村名	南佐久郡佐久穂町	箇所名(ふりがな)	高野町相生(たかのまちあいおい)			
事業目的	北沢川は、佐久穂町の山間部を源に、農地及び住宅地を急勾配で流下し千曲川に合流する河川である。北沢川の流域では、近年、平成11年8月の豪雨、平成16年10月の台風23号による浸水被害を受けている。このため、河道を拡幅し流下能力を向上させ、流域の治水安全度を確保するため、平成20年度から河川改修事業を実施しており、平成29年度末までに千曲川合流点から640mの河川改修が完了する予定である。平成30年度から残区間960mの河川改修を引き続き実施する。							
しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-1県土の強靱化(災害に強いインフラ整備)		事業実施の根拠法令等	河川法				
関連する事業、計画等	<input type="checkbox"/> 信濃川水系河川整備基本方針(平成20年6月 国土交通省北陸地方整備局) <input type="checkbox"/> 信濃川水系南佐久圏域河川整備計画(平成21年2月 長野県)							
保全対象・範囲 受益対象・範囲	<input type="checkbox"/> 想定氾濫区域内の人家戸数 : 80戸 <input type="checkbox"/> 想定氾濫区域内の農地面積 : 12ha <input type="checkbox"/> 想定氾濫区域内の公共施設 : 主要道路、生活道路、避難所施設、その他施設							
着手年度	平成30年度	事業期間	9年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)			
完成年度(見込み)	平成38年度	費用対効果	1.9		国庫	その他	県債	
全体事業内容(主な工種)	河道拡幅工 L=960m			1,100,000	550,000	495,000	55,000	
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	災害防除						
	間接的効果(定量的・定性的)	地域の活性化						
評価の視点	必要性	<input type="checkbox"/> 想定氾濫区域内の人家戸数 : 80戸 <input type="checkbox"/> 想定氾濫区域内の公共施設 : 7施設 <input checked="" type="checkbox"/> 主要道路(国道141号)、 <input checked="" type="checkbox"/> 生活道路(町道榎田大張線、町道宿岩下畑線、町道寛元線) <input checked="" type="checkbox"/> 避難所施設(高野町公会場、宿岩生活センター)、 <input checked="" type="checkbox"/> その他施設(佐久穂町農産物直売所) <input type="checkbox"/> 浸水想定区域内の農地面積 : 12ha <input type="checkbox"/> 要配慮者利用施設の有無 : なし					評価	C
	重要性	<input type="checkbox"/> 過去の浸水履歴 : H11.8.14(床上浸水2戸)、H16.10.20(床上浸水3戸) <input type="checkbox"/> 交通遮断による地域経済への影響 : 国道 <input type="checkbox"/> 重要水防区域 : 全区間重要水防区域					評価	A
	効率性	<input type="checkbox"/> 費用対効果(B/C) : B/C 1.9 <input type="checkbox"/> 事業期間 : 9年間 <input type="checkbox"/> 工法等の検討 : なし					評価	B
	緊急性	<input type="checkbox"/> 近年の自然災害の発生状況 : 護岸の被災(H27.6) <input type="checkbox"/> 近年の水防回数 : 3回(H25.9.16、H25.10.15、H28.8.30) <input type="checkbox"/> 現況流下能力 : 最小27% <input type="checkbox"/> 護岸等河川施設の種類 : 築堤					評価	B
	計画熟度	<input type="checkbox"/> 事業情報の共有 : 信濃川水系南佐久圏域河川整備計画の策定に係る公聴会の開催 <input type="checkbox"/> 地域の取り組み : 地元からの強い要望があり、河川事業に対する協議会が設立されている <input type="checkbox"/> 地域の合意形成 : 合意形成が図られている <input type="checkbox"/> 住民との協働 : 住民参加による河川の草刈りが実施されている					評価	A
部局意見	当該河川の保全対象には、人家、公共施設等があるが、平成11年、16年に浸水被害を受けていることから、河川改修を早急に実施する必要がある。			採択状況	総合評価			
				○	B			
技術管理室意見	部局の意見を適当と認める。							

【北沢川位置図】

【北沢川横断面図】

事業概要説明図表

事業周辺環境

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	北沢川は山間部から短い距離で千曲川に合流する急流河川であり、過去から出水による被害が生じてきた。昭和30年代には台風等により大きな被害を受けたため、災害復旧事業により本事業区間の護岸施設が復旧された。近年では、平成11年8月の豪雨、平成16年10月の台風23号による出水により住宅等の浸水被害が生じている。また、北沢川に流入する支川が、北沢川の水位上昇により溢れる内水被害もたびたび発生している。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	過去の浸水被害を受け、「北沢川改修対策協議会」から河川改修事業の促進について、毎年県へ要望されている。
③事業説明等の経緯	・信濃川水系南佐久圏域河川整備計画(原案)住民公聴会(H20.10.28) ・北沢川改修対策協議会において関係住民に事業説明(H29.7.7)
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	・平成20年6月に信濃川水系河川整備基本方針が策定(国土交通省北陸地方整備局) ・平成26年1月に信濃川水系河川整備計画が策定(国土交通省北陸地方整備局) ・平成29年度に中部横断自動車道が供用開始予定(国土交通省)
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	・自然環境に配慮した環境保全型護岸形式の採用
⑥地域活性化への影響と配慮	・本事業により、地域の治水安全度が向上し、商業施設の整備や定住化等、地域の活性化が期待される。
⑦その他	・中部横断自動車道の雨水排水について、調整池により流出抑制が図られているが、河川改修により本川への排水処理が円滑となる。

事業代表地点の緯度経度

北緯:N 138° 9' 56" 58
東経:E 36° 28' 37" 36